

中心商店街の入口に高齢者、障がい者、地域住民のための「まちのえき」を整備
もう一方の入口には親子交流施設を設置し、中心商店街の回遊性を高める

NPO法人山口せわやきネットワーク(中市商店街振興組合)

| | | | |
|--------------------|--------------------------------------|-------------------|--|
| 機関名 | NPO法人山口せわやきネットワーク(中市商店街振興組合) | | |
| 所在地 | 山口市中市町3-14(山口市中市町3-3) | | |
| 電話番号 | 083-934-0811(083-925-5011) | | |
| 地域概要 | (1)管内人口 143千人 | (2)管内商店街数 7商店街 | |
| 事業の対象となる 商店街の概要 | (1)商店街数 1 | (2)会員数 33商店 | |
| | (3)空店舗率 4% | (4)大型店空き店舗数 0 | |
| 商店街の種類 | 1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街 | | |

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業(高齢者等交流施設)
・交流サロン事業、タウンモビリティ事業、
まちの楽校事業、まちの保健室相談室事業
置・運営 等
総事業費 5,160千円

【事業実施内容】

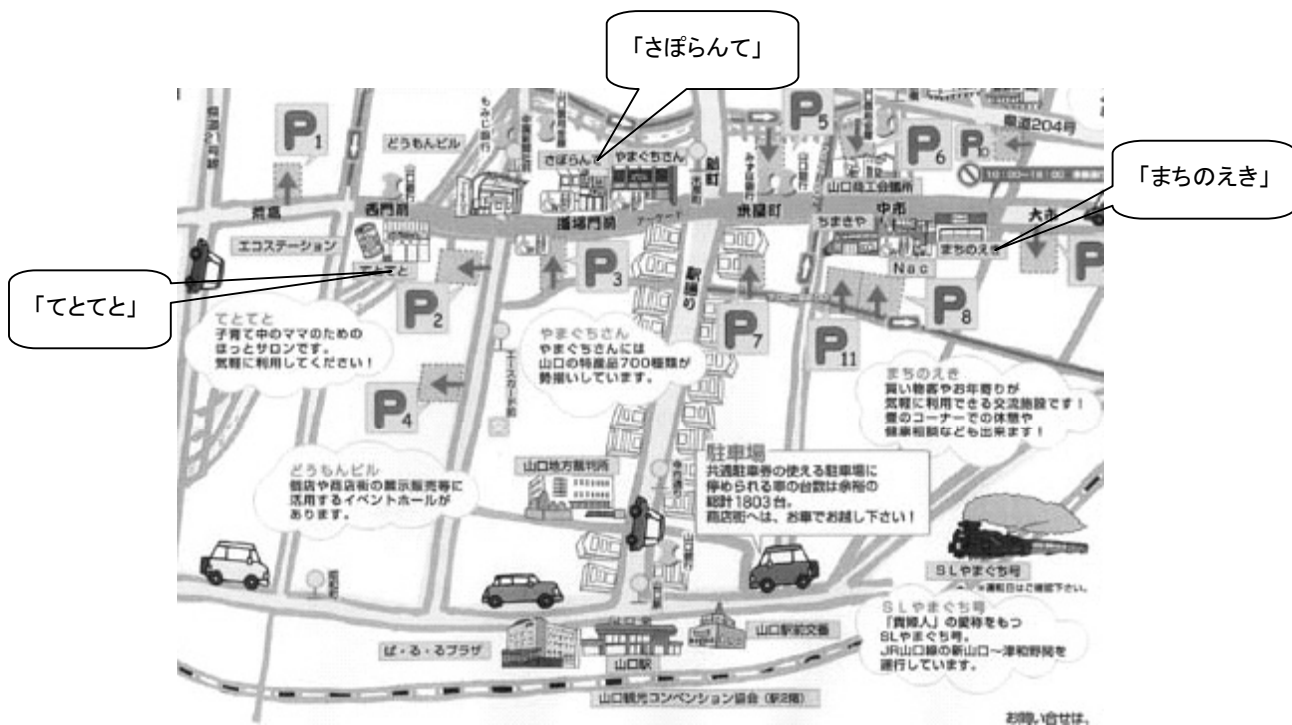
1. 背景

中市商店街は、JR山口駅の北方約500mの米屋町商店街の東側に隣接し、街路の延長は直線で210m・幅員7.5mであり、全蓋アーケードならびにカラー舗装を設置し、山口県の県都山口市の中心商店街に位置し、7つの商店街内(中市、大市、米屋町、道場門前、西門前、新町、駅通り)の中核的な商店街としての役割を担っている。当商店街は、アルビ(大型スーパー)と、ちまきや(百貨店)との協調により、商店街としての機能を維持しており、地域密着型と広域商圈型との2つの相反する概念を融合させるようなイベントや売出しなどを実施して活性化に努めてきたが、アルビが6年前に倒産した後、街区には空き店舗が目立つようになり対応策が求められていた。来街者は高齢化しているが、一方で山口大学、山口県立大学、山口芸術短期大学があり、若者も回遊している。

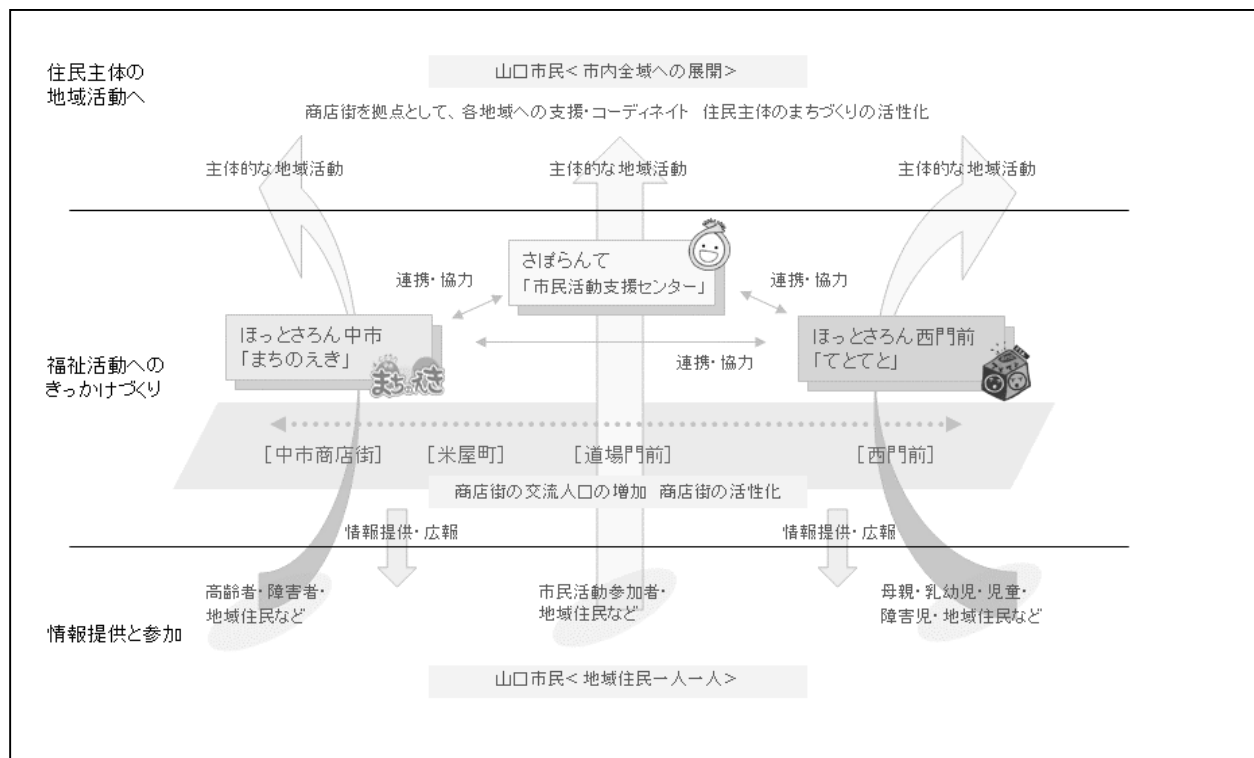
このような状況の下、「福祉のまちづくりから福祉でまちづくり」をテーマにした山口モデルの提案に基づき、商店街を拠点として地域への支援・コーディネート、住民主体の街づくりを図ることを目的に、中市商店街のアーケードの東の入り口付近に、高齢者、障がい者、地域住民等が休憩・交流できる「まちのえき」を、西の入り口付近の西門前商店街(山口市本町商店街振興組合)には、別事業として母親、乳幼児、児童、障がい児、地域住民のためのほっとサロン「てとてと」を、平成15年7月に設置した。全体の来街者数の増加と回遊性を高めることを狙いとし、中心商店街の東西の入り口付近にコミュニティ施設を設置し、さらに、中ほどに位置する市民活動支援センター「さぼらんで」との連携を図った。市民に対して認知が広がっており商店街の賑わいの定着を図る必要性から、本年度も取り組むこととした。

各施設の位置関係並びに山口モデル提案図は次のとおりである。

NPO法人山口せわやきネットワーク（中市商店街振興組合）



「まちのえき」の位置（山口商工会議所 HP より加筆）



「福祉のまちづくりから福祉でまちづくりへ」山口モデル提案図（「てととと」HP より）

2. 事業内容

（1）施設運営管理

- ・開設時間 10：00～18：00（休日：水曜日、お盆、年末年始）
- ・入館者数

| 月 | 入館者数 | 月 | 入館者数 | 月 | 入館者数 |
|----|--------|-----|--------|-----|---------|
| 4月 | 926人 | 8月 | 1,010人 | 12月 | 944人 |
| 5月 | 1,026人 | 9月 | 943人 | 1月 | 821人 |
| 6月 | 847人 | 10月 | 1,296人 | 2月 | 929人 |
| 7月 | 1,012人 | 11月 | 1,179人 | 3月 | 953人 |
| | | | | 合計 | 11,886人 |

- ・運営委員会の開催
コミュニティ施設活用事業に対して、計画的かつ効果的な実施や事業の評価の意見を聞くために運営委員会を設置（年2回）
- ・実験的事業への協力
運営委員会が提案した実験的事業に、「まちのえき」の職員が協力した。
※ 実験的事業・・・「商店街広報誌づくり事業」
（主催：街づくり山口、山口商店街連合会、NPO法人ゆにーく）

（2）交流サロン事業

商店街を訪れる市民が世代や高齢者、障がい者の枠を越え、気軽に休憩・交流するサロンを設置し、福祉関係の窓口・相談、福祉情報の提供を行った。

①福祉情報の収集・提供

福祉関係機関とのネットワークを作り、各種専門機関の情報を収集し、その情報を必要とする市民に提供した。（「まちのえきだより」の発行、ホームページ等掲示）

②講座の開催

高齢者の引きこもり防止や介護予防を図るため、高齢者が講師となり、知恵や能力を活かして高齢者の輪作りができる講座を行った。（月2回程度実施）

③研修の開催

市民へ広く社会福祉制度の認知を図るため、社会福祉に関する研修を実施した。（月1回程度実施）

④交流ふれあい事業

高齢者等に対し、簡単なレクリエーションを行い、閉じこもり予防等を行った。（いきいき歌体操、茶話会など）

NPO法人山口せわやきネットワーク（中市商店街振興組合）

平成16年度 ほっとさろん中市「まちなのえき」利用状況月計表

（単位：人）

| | 平成15年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | |
|-------------------|----------------|-------------|---------------|-------------|---------------|---------------|-------------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 営業日 | 12ヶ月 | 25日 | 27日 | 25日 | 27日 | 24日 | 24日 | 27日 | 26日 | 24日 | 24日 | 24日 | 26日 | | |
| 入館者数(1日当り平均人数) | 14,081 (49) | 926 (37) | 1,026 (38) | 847 (33) | 1,012 (37) | 1,010 (42) | 943 (39) | 1,296 (48) | 1,179 (45) | 944 (39) | 821 (34) | 929 (38) | 953 (36) | 11,886 (39人) | |
| 交流サロン | 講座 | 118 | 42 | 67 | 58 | 72 | 33 | 48 | 67 | 69 | 87 | 70 | 70 | 76 | 759 |
| | 福祉相談 | 38 | 3 | 4 | 3 | 2 | 3 | 0 | 3 | 6 | 1 | 3 | 4 | 2 | 34 |
| | 研修 | 389 | 133 | 146 | 9 | 6 | 6 | 67 | 20 | 25 | 6 | 21 | 84 | 18 | 541 |
| まちなの保健室(1日当り平均人数) | 3,630 (12) | 309 (12) | 348 (12) | 326 (13) | 321 (11) | 267 (11) | 326 (13) | 376 (13) | 336 (12) | 295 (12) | 283 (11) | 303 (12) | 298 (11) | 3,788 (12) | |
| まちなの楽校 | 319 | 0 | 0 | 17 | 20 | 22 | 14 | 20 | 19 | 17 | 19 | 16 | 28 | 192 | |
| 福祉住環境・福祉用具相談 | 14 | 5 | 5 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 4 | 4 | 29 | |
| タウンモビリティ | 電動カート | 227 | 18 | 21 | 25 | 26 | 26 | 16 | 36 | 69 | 103 | 76 | 54 | 50 | 520 |
| | 車いす | 29 | 3 | 2 | 4 | 2 | 11 | 2 | 1 | 6 | 5 | 2 | 4 | 2 | 44 |

(3) タウンモビリティ事業

電動カート等の移動器具の貸出し及び移動送迎、介助を行い、障がい者や高齢者等が買い物しやすい環境を整えた。



タウンモビリティ

(4) 福祉住環境コーディネーター事業

様々な事例に対する資料をそろえ、住環境に不便を感じた際の具体的な相談に応じ、住宅改修事例等の情報を提供した。
(月2回実施)

(5) まちなの楽校事業

学校過五日制に伴い、高齢者と子どもの世代間交流を図った。子どもたちが高齢者から昔の遊びや歌、習慣等を学んだ。(6月より月1回程度実施)



まちなのえき正面

（6）まちの保健室相談室事業

健康に関心を持っている人や不安を持っている人又はその家族の健康に関する相談を受け、必要に応じて血圧測定、体脂肪測定等の健康チェックを実施し、心身の健康に関し必要な指導及び助言を行った。

また、市の実施する保健事業や講座等を紹介し、利用者に利用を随時勧めると共に、独居や近隣との交流が少ない高齢者等が、気軽に立ち寄り会話を楽しむ場を交流サロン内に提供し、相互の交流を深めた。



まちの保健室相談室

《平成15年度の課題についての取り組み》

①相談環境づくり

相談環境スペースを確保し、相談環境を整えた。さらに、相談体制の充実を図り、新たな取り組みとして介護相談会を実施した。

②冬季の入館者数

講座の開催を増やし、冬季の入館者数の増加を心がけた。

（参考資料）「まちのえき」1日当たり平均利用者比較表（単位：人）

| | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 平成15年度 | 45人 | 32人 | 29人 | 37人 | 37人 |
| 平成16年度 | 45人 | 39人 | 34人 | 38人 | 36人 |
| 増減 | 0人 | +7人 | +5人 | +1人 | -1人 |

③認知度

情報誌を毎月発行し、山口市内の民生委員と福祉委員に配布した。また、講座やイベントを開催する際に、報道機関に情報を発信し、認知度の向上に努めた。

④入りやすい雰囲気づくり

施設内のギャラリーを充実し、入りやすい雰囲気作りを心がけた。

【 効 果 】

1. 来街者の行動

①商店街利用者の増加

商店街利用者の増加に寄与した。また、移動機器（電動カート、車いす）の貸出により顧客層の拡大にも寄与した。

※ 前記 平成16年度「まちのえき」利用状況月計表を参照。

※ 山口市商店街通行量調査

「まちのえき」付近の平鹿16年度通行料調査は、「中市・金子染物前」では、平日で前年比32.2%減、休日で10.4%増である。一方、「大市・岩見屋寝具店前」では、平日で前年比28.8%減、休日で12.2%減である。

NPO法人山口せわやきネットワーク（中市商店街振興組合）

②商店街滞留時間の増加

講座の回数やイベントの回数を増やし、商店街滞留時間の増加に寄与した。

2. 交流の促進

（ア）施設利用者 ⇔ 「まちのえき」スタッフ

利用者と「まちのえき」スタッフの信頼関係が高まった。

（イ）商店街関係者 ⇔ 「まちのえき」スタッフ

青年部会議に毎回出席し、中市商店街の青年部会員の方々との交流を深めることに努めた。また、月恵比須や夏祭りの手伝いもした。

現在（17年7月末現在）も引き続き事業を継続しており、商店街を訪れる市民が気軽に休憩・交流できるサロンの運営、福祉関係の窓口・相談、福祉情報の提供を行っている。今後の事業展開として、活動を継続するためのしくみづくりを考えている。

【課題・反省点】

1. 事業費の確保

平成18年度以降の運営費が課題となってくるが、自主事業の検討や運営費の見直し、新たな提案などの観点から協議し、市の委託事業の機能及びコミュニティ施設の機能の継続を考える。

2. 商店街との連携

商店街の活動に協力しているが、まだまだ連携の段階まで到達できていないのが現状である。市の委託事業において、商店街の機能を活用した取り組みをしていくとともに、商店街関係者との意見交換の場を増やしていきたい。

3. 事業効果の評価

商店街活性化におけるコミュニティ施設の事業効果が客観的な数字で表わせていない。平成17年度は利用者アンケートや商店主アンケートを実施し、事業評価のための調査を実施する。

4. 利用者との双方向の関係づくり

現在の「まちのえき」の利用者とスタッフの関係は、主にスタッフが利用者になにかをするという一方の関係であるが、今後は利用者の社会参加という観点からも利用者を巻き込んだ双方向の関係づくりを目指したい。

【事業の実施ポイント】

1. 補助終了後にどうするかということをよく検討し、継続のためのしくみとして長期計画の作成が必要である。
2. この事業は商店街の活性化を目的とした事業であるので、NPO法人と商店街関係者との相互理解が不可欠であると同時に、商店街関係者の主体性が必要である。

【関連URL】

ほっとさろん中市「まちのえき」 <http://www.c-able.ne.jp/~matinoek/>

ほっとさろん西門前「てとてと」 <http://www.teto2.jp/>

山口市市民活動支援センター「さぼらんて」 <http://2style.jp/saporant/>